

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271400267		
法人名	社会福祉法人 阿育会		
事業所名	グループホーム じゅらく		
所在地	千葉県香取市佐原ホ323-2		
自己評価作成日	令和4年1月21日	評価結果市町村受理日	令和4年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku./12/index.php">http://www.kaigokensaku./12/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート楽楽		
所在地	千葉県旭市口1004-7	TEL	0479-63-5036
訪問調査日	令和4年3月11日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>•個々のニーズに合わせた支援</li> <li>•家族との会話を提供します。リモートを利用して顔を見て会話ができるように工夫しています。</li> <li>•猫2ひきと暮らしている</li> <li>•外出支援をしています。コロナに感染しないよう気を配り実施します。</li> <li>•手作りの料理やお菓子などを提供します。</li> <li>•家族のように接するように暖かい雰囲気です。</li> </ul>
---

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>全体的にアットホームな雰囲気、利用者個々に併せた笑顔の支援が行われている。長引くコロナ禍で、色々な制限がある中、テレビの回線を活用したWi-Fi等を活用したり、家族との面談を少しでも増やせるよう工夫をしたり、ベランダ菜園や猫との生活の彩、車の中からのお花見等色々アイデアだし合って利用者の笑顔を引き出している。</p>
--

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日確認できるようにリビングの壁に理念をかけています。	リビングの壁に理念を掛けてあり、毎日の支援の中で目に触れることが出来、職員会議でも理解を深めるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため、感染しないよう会ってませんが、回覧板をまわして情報などは共有しています。	長引くコロナ禍で、皆での外出や行事への参加には制限があり、Wi-Fi等を活用したり、少人数での散歩や回覧板をまわして、情報の共有している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため、書面開催となっている運営推進会議で状況などを報告しています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーやご家族と意見の交換を行い、頂いた意見についてはミーティングなどで周知するようにしています。	サービスの実際、取組等を家族や参加者等と話し合い、意見、要望等は更にミーティングなどで周知し、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所やグループホーム連絡会からは定期的に書面で情報を頂いています。行政サービス等で不明な点が生じたときは市役所の担当者に電話や窓口で相談しています。	市役所やグループホーム連絡会はコロナ禍で、定期的に書面での情報提供になっており、不明な点等は電話や窓口で相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束はしていません。社内研修で定期的に身体拘束の内容について学習しています。	身体拘束は有りません。定期的な内部研修にて身体拘束について勉強している。外部研修は、コロナ禍で中止、オンラインになっている。	外部研修等はオンライン研修の活用を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修を行い、防止の徹底に努めています。	/	/

[評価機関]

特定非営利活動法人ライフサポート楽楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、成年後見人制度を活用している利用者はいません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、丁寧に説明をしています。疑問等にお答えして理解・納得をして頂いています。その後、契約書を取り交わしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍のため家族会を開催できませんが個々に話し合いをしています。ご家族に疑問が生じた時は、すぐに連絡が取れるような関係性を築いています。電話、LINEなどを活用して頻繁に連絡しています。	家族会は開催出来ていませんが、ご家族の相談等は、頻繁に電話やLIINなどを活用し対応できています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを開催します。代表者も積極的に参加しています。	全員参加のミーティングを月に1回行い、代表者も積極的に参加し、意見の言える環境が整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ミーティングで意見交換を行い、問題点や希望などを伝えることができます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修、勉強会には積極的に参加しています。参加できるようにシフトを作ります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会などで交流ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	全職員で何度も話を聞き、何を求めて何を望んでいるのか理解できるよう努めています。要望にお応えできるよう、全職員で協力して対応しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	疑問や不安な点については、納得できるまで何度も説明します。ご家族が連絡しやすい関係性を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	じっくりと話を聞いて、何を求めている、何が必要なのか見極めるよう努めます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援は意識して対応します。生活の中で、出来ることは積極的にしてもらい自宅で過ごしているような雰囲気づくりをしていきます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	リモートでお互いの顔を見ながら会話をする機会を増やしています。コロナが落ち着いた頃は、外出や面会のお誘いをしていました。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービスに知り合いがいる場合は、時々リビングで談笑できるよう1Fと2Fのスタッフが協力して支援しています。	併設のデイサービスにお友達が来ている日はスタッフの支援で談笑できるように取りはからい交流が出来るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の雰囲気を把握し、どのような関係性なのか理解に努めます。スタッフは会話に積極的に参加して和めるような雰囲気をつくります。気分を損ねている利用者には、スタッフ間で協力して対応します。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	治療のためなどで退所される方には、どのような方法があるかアドバイスをします。退所後も、経過確認のために連絡をします。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今まで、どのような暮らしをしてきて、何を望まれているのかを、ご本人とご家族に伺います。施設の暮らしの中で、出来そうなことを検討し実施をします。	家族との連絡は密に取り、本人の希望や家族の思いを伺い施設での暮らしの中で、出来ることを検討し支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に提出された資料を確認します。ご本人とたくさん会話をして、生活環境や思いを知るように努めます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各スタッフが積極的にコミュニケーションを取り交わして、タブレットに記録します。情報を共有します。毎月のミーティングで、情報共有を深めます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフは、たくさんコミュニケーションを取って言葉や状況を集めます。ご家族やナースからの情報も集めます。集めた情報や資料をもとに介護計画を作成し、ご本人ご家族に説明して了承を得ます。	関係者からの情報をもとにミーティングで話し合い、計画を立てて本人やご家族に説明し了解を得て支援に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各スタッフが気づいたことをタブレットに記録します。この記録は、全スタッフが必ず目を通します。次月のミーティングで再確認し、介護計画の見直しに活かします。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1Fの利用者やスタッフの来訪があります。受診や買物などに1Fのスタッフが対応する時もあります。様々に人と関わり、2Fだけで対応できない時は、1Fの援助があります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各個人のかかりつけ医の受診は家族にお願いしている。できない場合は、付き添いをします。	受診は家族支援だが、無理な時は職員が付き添いを行い情報を連絡している。予防接種や歯科も定期的に診察を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、看護師が巡回にきて健康状態を確認しアドバイスを受けることができます。緊急のときには、医療連携の看護師やデイサービスの看護師に支援をお願いできます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換や相談に努めている。千葉県地域生活連携シートを使用して情報を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については十分に話し合いをしている。利用者やご家族の思い、施設として出来ることを十分に説明し、ご家族に協力もお願いしている。	重度化や終末期については、利用者や家族の思い、施設の出来る事を説明し、ご家族の協力もお願いしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しており、スタッフ全員が熟知するよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。非常食や防災用品の準備をしています。	消防の協力で年2回の災害訓練を実施している。非常食も準備されており、定期的に訓練時使用し、新しい物と入れ替えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	書類は、鍵のかかる書庫に保管していて、持ち出しは禁止しています。丁寧な言葉遣いを心掛けています。スタッフ間で確認しあい、相応しくない言葉があるときは指摘します。	利用者の声かけは気を付け、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない態度や言葉かけしている。書類管理等はカギのかかる書庫にて保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が、何でも話せるような雰囲気づくりを心掛けています。会話の中で、自己決定ができるように働きかけます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	コミュニケーションを取る事を大事にしています。表情がすぐれない方がいる時は、話しかけることを優先しています。利用者の気持ちを想像してケアをしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を一緒に選ぶお手伝いをしています。コロナ禍の前は、一緒に買物に行っていました。現在は、ご依頼されたものを買うことがあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	能力に応じてお手伝いをお願いしています。好みの漬物を常備している方もいます。一緒に献立を考えてもらうこともあります。時々、出前をとることもあります。	長いコロナ禍で外食等が減り、時々出前を取ったり、一緒に献立を考えたり、出来る方にはお手伝いをお願いしたり、食事が楽しめるよう工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者の食事量、水分量は常に確認しています。量が少ない方には、お勧めしたり、好みの副菜などを用意して食事がすすむよう工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯装着している方、義歯のない方など状態に応じ清潔保持の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	分かりやすい声掛けをして、出来る動作はしてもらいます。失敗しても、委縮しないよう優しくフォローをします。	スタッフ全員で利用者の状況を把握して声かけをして、トイレでの排泄に心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな利用者の排泄状況は、スタッフ間で共有します。水分量が少ない方には、お茶の時間等に、好みの飲み物をお勧めします。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	3日に1度のタイミングで入浴するが、希望があれば都度対応します。拒否される方には無理強いせず、日を改めて入浴のお誘いをします。	3日に1度の入浴ですが、希望があれば都度対応している。また、季節の入浴等を行い楽しく入浴できる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の生活が満足できるよう努めています。運動したり、施設内を自由に動き回ったり、スタッフが話し相手になったり状況にあわせて対応しています。足元が冷える方には暖房器具を用意しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が薬の理解と保管場所、情報書の確認と症状の悪化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花見を好まれるので、桜、菊、コスモスなど季節ごとに花を見に行きます。近所に買い物に行く事もあります。誕生会や夏祭り、新年会などを行い、気分転換の支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出、受診、などで戸外に出かけています。コロナ禍のため、人との交流は制限しています。花見などで外出する時は、車輦の中から花を見ました。天気の良い時は、近所を散歩する時もあります。	コロナ禍で今までの様に遠出の遠足等が出来ない中、車両の中からのお花見や近所の散歩等出来るだけ外出する機会を工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自ら支払いする方もいる。管理が難しい方も外出時や買い物の際は一緒に必要な金額を財布から出すようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があるときは、支援しています。LINE電話で、お互いの顔を見ながら会話をすることもあります。お互いの表情を見ながら会話ができるので大変喜ばれます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	状況を見て、リビング、脱衣所、浴室等の空調の温度設定を調整しています。観葉植物を置いたりや季節の花を飾ったりしています。季節に合わせて、リビングの飾りつけもしています。	共有スペースは花や観葉植物が置かれ、季節に合わせて模様替えをし、空調管理もされている。犬や猫も利用者と一緒に、癒しの役割を担っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内は、自由に動き回れます。リビング、和室、テラス、サロンなどを自由に利用できます。居室内の出入りも自由です。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ち込んでもらいます。家族と相談して好みのものを追加で購入されることもあります。	今まで家で使い有れた物を持ち込んでもらっている。部屋の掃除は職員が行っているが、利用者の出来るところは一緒に行っている。シーツ交換、布団干しは定期的に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、廊下、トイレなど、広いスペースが確保されていて手すりも設置されています。安全に移動できます。扉は全て引き戸のため、安全に開閉できます。		